

山形県立産業技術短期大学校の業務実績評価（評価対象：令和6年度）						
大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価		
			4適切 3概ね適切 2一部改善を要する 1改善を要する			
1 教育理念・目標の確立						
1-1	教育の基本理念を確立し、明示している	『産業構造の高度化、多様化、情報化に対応する豊かな感性と創造性を備えた実践技術者を育成確保し、本県の技術力の向上と産業界の振興に貢献するため、「地域産業に密着した人材育成機関とする」、「開かれた短期大学校とする」、「地域産業の技術開発に貢献する」の3つの目標を達成すること』を基本理念に掲げている。	4	4	○建学の精神を踏まえた基本理念が確立されており、学生便覧、パンフレット等の発行物にも冒頭にしっかりと明示してある。 ○教育の基本理念は明示され、適切と判断される。 ○Guidebookのアドミッションポリシーの記載（基本理念ほか）を学生募集要項にも載せた方がよい。	
	教育目標を確立し、明示している	「実践技術者の育成」、「創造的で個性的な技術者の育成」、「地域産業界との緊密な連携に基づく人材育成」、「より高度な実践技術者の育成」の4つを重点目標に掲げている。また、科ごとに教育目標を定めている。	3	3	○建学の精神を踏まえた基本理念が確立されており、学生便覧、パンフレット等の発行物にも冒頭にしっかりと明示してある。 ○全体の教育目標を明示し、かつ科ごとにそれぞれの教育目標を掲げ、明示している。 ○教育目標を達成した結果取得できる資格（検定）も多くあるが、それぞれの資格がどのような職業で活かせるかの具体的紹介があるとよい。	
1-3	アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）を定め、明示している	求める学生像として、「ものづくりへの興味・関心(発想が豊かで柔軟性があり、新たな価値・モノを創造しようとする情熱のある人)」、「「探究心」をもって挑戦しようとする積極性と実行力(好奇心、感性にあふれ、積極的、主体的にいろいろなことにチャレンジし、実行できる人)」、「社会に貢献しようとする心(異なる考え方や文化を尊重するとともに、地域を愛し、社会に貢献しようとする意欲のある人)」を掲げている。	3	3	○「求める学生像」としては一定の基準を明示していると考えられるが、入学選抜の基本的な考え方を明示するという意味でのアドミッションポリシーとしては、より具体的に、修得しておくべき内容などを明示した方がわかりやすい。 ○「求める学生像」「期待される人物像」の記載のみならず、高等学校等で習得しておくことが期待される能力（入学者に求める能力）とその獲得状況を判断するための入試科目方法（入学選抜において評価する力等）についての表現・記載が必要ではないか。	
2 体系的な訓練課程の編成						
2-1	育成する人材像と教育の重点事項を定め、明示している	育成する人材像を「高度な知識と技術を兼ね備え、時代と地域産業の要請に応えた技術開発や計画・設計のできるものづくり産業の担い手」とし具体的に重点事項を定めている。 また、技術的な面のみならず「探究心を持ち、課題発見力・課題解決力やイノベーション力を身に付けた人材」も育成する人材像として明確にしていく。	3	3	○育成する人材像は、最終的な到達目標が明示されている。 ○学校紹介パンフレットにあるカリキュラムの可視化の図は大変分かりやすい。 ○卒業生は技術面だけでなく探究心に富む人材が多く全人的な教育がなされていると評価できる。 ○育成する人材像と教育の重点事項は学生募集要項に項立てして明示されている。加えて、教科計画には教科の細目が示され、学習案内には各科目ごとに掘り下げた育成人材像・教育の重点事項が示されている等、情報量は十分。熱意も感じられ評価できる。	
	体系的に訓練課程を編成し、明示している	各科目ごとに体系的な訓練課程として、カリキュラムチャートを作成し、どのような技術がいつ、どのような科目で身に付けられるかを一覧化している。	3	3	○学科ごとに細やかに整理された訓練課程が学科・実技別に編成されており、いずれも学修案内に明示されている。	
2-3	学習成果を定め、明示している	科目ごと授業概要に教育の目的と到達目標を示している。学科の教育目標に具体的に示している。	4	4	○科目ごとの授業概要に到達目標が明示されている。 ○情報システム科はじめ各科の教育目標が具体的に記載されている。 ○個々の学科・科目ごとに授業概要及び教育の目的と達成目標を示してある。学習成果については到達すべき目標が具体的に明示されており、習得すべきスキルが十分に理解できる。 ○項目が詳細になれば、それに従い自由度は少なくなる。授業の硬直化・定型化を招くリスクがあるため、技術の進歩や社会の変化に即して適宜内容の見直しとアップデートは必要。	
	修了認定方針を定め、明示している	履修規程に授業科目、授業単位、履修の認定、試験、進級条件、修了の認定について明記している。 R7年版においては、履修規程を見直し、授業単位、成績評価ほか必要な改正を行った。（R7.3月改正）	3	3	○修了認定方針を定め、明示している。 ○いずれも詳細に学生便覧に明示されている。 GPA制度の明記や必要な改訂も行われており、着実な改善が見て取れる。	

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切　3概ね適切　2一部改善を要する　1改善を要する		
3　授業科目における訓練目標、授業の内容と方法、訓練計画及び成績評価基準					
3－1	履修科目、訓練目標、授業科目の内容と方法を明示している	シラバスにおいて、履修科目における目的・到達目標及び授業計画と授業の方法を明記している。	3	3	○履修科目ごとの到達目標と授業方法は明示されている。 ○教科計画に十分な情報量で明示されている。 ○授業計画等は統一的な形式を整えて明示すべきであるが、令和7年度版シラバスを見ると、改善がなされている。短期間で大幅に改善された学内の内部統制力は評価できる。
	授業計画を明示している	教科計画の年間授業時間算出表で総訓練時間を算出し、教科の細目で教科、教科の細目、訓練時間を明記。また、シラバスにより、授業概要、授業計画等を明記している。	3	3	○教科ごとの年間授業時間算出表で総訓練時間数を明記している。 ○教科計画に十分な情報量で明示されている。 ○授業計画等は統一的な形式を整えて明示すべきであるが、令和7年度版シラバスを見ると、改善がなされている。短期間で大幅に改善された学内の内部統制力は評価できる。
	成績評価基準を明示している	履修規程（学生便覧に掲載）に成績評価基準を明記するとともに、シラバスに科目ごとの成績評価方法を明記している。	3	3	○教科計画に十分な情報量で明示されている。
4　授業科目の適切な設計・実施・評価					
4－1	授業科目は、必要な能力を育成するよう編成・実施している	職業能力開発促進法施行規則に定められた標準的な教科や時間数等を基に、カリキュラムチャート等に履修すべき科目と時期を体系的に位置づけて編成し、シラバスに則り授業を実施している。	3	3	
4－2	授業実施内容を評価する仕組みをもっている	前期・後期ごと期末に電子アンケート方式により学生に授業改善アンケートを実施。各授業の担当教員及び所属する学科内の他の教員、管理職がアンケートの結果を閲覧できるようにすることで教員、学科にフィードバック、共有し、適切な改善につなげている。	3	3	○学生による授業評価アンケートが実施され、その結果が共有されていることは評価できる。管理職が授業評価結果を精査することは極めて重要。 ○評価手法についての検証やフィードバックが仕組みの"肝"である。令和7年度 of の取組みに期待したい。
5　適正かつ厳正な成績評価及び単位認定					
5－1	成績評価を適正かつ厳格に行っている	履修規程に則り担当教員が成績評価基準により評価し、学科ごと成績評価担当教員がとりまとめ科内でチェック、校長を座長とする科横断の進級判定会議及び卒業判定会議で総合的なチェックを行い評価の客観性と妥当性を保っている。	3	3	○履修規程により、厳正な評価を行うべく体制を整えている。 ○学科横断の判定会議や卒業判定会議による確認も公正かつ常識的である。
	単位認定を適正かつ厳格に行っている	履修規程に則り原則として授業時間の80%以上出席し、期末の定期試験等で成績基準を満たした場合に合格とし単位を認定している。	3	3	○成績評価方法欄の記載は、種々の方法を総合的に判断するという記述が散見される。定量的な達成度評価を基本として運用すべきである。
	学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている	GPA制度に基づき測定する仕組みを導入し、GPAに関するデータを学生、家族に期ごとに提供するとともに、教員に提供することで適切な学習指導につなげている。 職業能力開発促進法に基づく技能照査を実施し、必要な技能、知識の習得状況を検証し、得点が60%以上の者を合格とし技能士補と称することを可能としている（2年生を対象に卒業前2か月以内に実施）。 R7年版においては、履修規程にGPA制度について明記した。（R7.3月改正）	3	3	○GPA制度の導入は、学習指導上重要な仕組みであり、その導入は評価される。 ○GPA制度とそのデータ活用・フィードバック自体は学習指導上有効と評価できる。 ○技能士補認定についても学習の動機づけになるであろう。 ○履修規程へのGPA制度の明記は必要な整理と評価できる。 ○適切に改善が進んでいる。点検の精度が毎年上昇するような点検システムの一層の整備が重要。
6　教育資源					
6－1	教員は適切に配置され適切に教育・研究を行っている	各科の学生の定員に応じた教員を配置（1学年学生数10人－教員3人、20人－6人、30人－8人）し、教員1人に対し学生6.7人ときめ細かな少人数教育を行っている（R6教員数33人2名欠員）。 退職等で欠員が生じる場合は、計画的に教員募集（県職員）を行い補充（R6 1名採用） 学校全体の教員研修計画を立て、外部研修への参加により自己研鑽を行っているほか、県や関係機関の主催する研修への参加も促進している。	3	3	○教員の配置は適切である。 ○卒業生からのインタビューにより、教員による適切な教育指導が実施されていると判断できる。 ○現状の体制は概ね適正と思われるが、教員定員の在り様（少人数教育による質の高い教育への取組み）についても一度議論し、本校教育の在り方として確認しておくべきではないか。 ○本体制を維持するうえで、地方における人材難は深刻。質と量を維持すべき継続的な取組みが求められる。教員の求人を意識した広報活動も必要であろう。
6－2	教育に必要な施設・設備が整備されている	校地・校舎の面積は職業能力開発促進法の基準を満たし、適切な面積の運動場、図書館、体育館を有している。 施設・設備は施設整備計画に基づき、優先順位をつけて計画的に更新・整備。 R6 整備事例：冷温水発生機更新工事（～R7）、土木CADシステム更新 等	3	3	○教育に必要な施設・設備が整備されている。 ○適切に改善が進んでいる。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3概ね適切 2一部改善を要する 1改善を要する		
7 学生支援					
7-1	学生の生活支援を適切に行っている	自宅が遠隔地にある学生のため食事付きの学寮を男女別に整備（男子35室、女子6室） 授業料減免等就学支援制度、奨学金制度を適切に運用している。 配慮を要する学生等に対し、教職員による支援会議を行い組織的に必要な支援を行っている。 学生で組織する学生委員会の運営への指導・協力を行っている。 カウンセラーを配置し、学生相談を月4回実施（R6 延べ65回、延べ65人） 学生の利便性を図り、食堂、図書館、駐車場、駐輪場を設置している。	3	3	○学生の勉学に支障なきよう、十分な生活支援がなされている。 ○適切に改善が進んでいる。 ○概ね十分な配慮を持った取組みがなされているが、困窮学生に対しては適宜親身で柔軟な支援が求められる。相談窓口の工夫や学生の声が届きやすい仕組みが必要であろう。
	学生の進路支援を適切に行っている	学生に『進路の手引き』を配布、進路説明会を開催している(1年次 11月) 。授業の中でキャリアカウンセラーを講師にキャリアセミナーを開催している（1年次 12～2月）。 教職員による就職指導委員会を設置し、MSチームズによる情報共有等就職支援活動を組織的に実施している。 学科ごと2年担任と担当教員が学生に個別指導を行い就職活動を支援している。 無料職業紹介機関として、学内に求人票の貼り出し・紹介、図書館での閲覧環境整備を行っている（R6実績 求人数870件） 教育研究振興会と連携し本校学生への企業説明会を開催（3月4日（オンライン）、5・6日対面（ビッグウィング）、会員企業250社、学生96人参加） 企業実習(11月・5月)による就業体験の機会創出、教員の企業訪問による企業情報収集を行っている。 進学希望者を対象に編入対策講座を開設（10月～6月）（数学・専門科目・TOEIC、面接） 保護者向けの就職説明会を開催し、家族と就活にあたっての情報を共有している。（11月）	3	3	○進路説明会などの実施は重要である。さらに、企業実習は、貴重な就業体験として評価できる。編入学希望者対象の対策講座も評価できる。 ○適切に対応している。建学の精神を活かすべく地元企業の努力も必要。 ○大学編入への取組みは学生の可能性を広げ、学習に対する動機づけになるとともに本学の価値、位置づけを高める有効な取組みである。 ○多様性という意味でも、産技短からの編入学制度に期待が持てる。
7-3	学生の技術・技能の向上、資格取得を支援するとともに、褒賞制度を設けている	○技能五輪、若者ものづくり競技大会、東北ポリテックビジョン等各種技能競技会への出場を促進し、参加している。 【R6実績】 若者ものづくり競技大会（8月）メカトロニクス職種、メカトロニクス科2名 東北ポリテックビジョン（2月）土木エンジニアリング科2チーム、建築環境システム科1チーム 内土木エンジニアリング科1チーム総合優勝 ○技能検定等各種資格の取得促進 【R6実績】 技能検定合格 3級5名 情報技術者試験合格 基本13名、ITパスポート13名 1級施工管理技術者第一次検定合格 土木13名 2級施工管理技術者第一次検定合格 建築7名、管工事8名、土木13名、造園2名 測量士補試験合格 2名 コンクリート製品検定合格 中級3名、初級15名 ○成績優秀者、模範・活躍者への褒賞制度 【R6実績】 知事賞1名・山形市長賞1名・校長賞4名・教育研究振興会長賞5名・清水賞 1名	3	3	○大学校の理念にも照らし、技術・技能の向上は重要なポイントである。優れた成績をあげた学生への表彰の制度は評価できる。 ○適切に改善が進んでいる。職業人養成校として資格の取得率は学校の価値・評価に直結するので今後の一層の推進が期待される。 ○情報技術分野において、情報処理技術者試験合格が多数おり、学生の意欲を十分に引き出している点が評価される。卒業生は企業において即戦力として活躍しており、充実した教育がなされていることが実証されている。 ○意欲的な取組みは大いに評価できる。取組み状況につき学生の評価も聞きたい。
	各種団体等と連携し学生支援を行っている	県内企業による学校の支援組織である教育研究振興会と連携し学生向けの企業説明会を開催(R6実績 3月4～6日)、企業実習を振興会会員企業で受入れ（5月、11月）、振興会による学生の全国競技会への参加等を支援 同窓会総会等により現役学生も含め卒業生の交流や学校との連携を図っている（総会11月開催90名参加） 同窓会事業として、産技短祭、卒業祝賀会、花笠祭参加等への助成、協議会等課題活動への支援、就職活動への支援等を受けた。 大学コンソーシアムやまがたと連携し学生支援事業、単位互換事業の紹介等を行った。 ハローワーク等就職支援機関と連携し学生の就職活動支援を行った。	3	3	○教育研究振興会との連携は企業実習についても重要な役割を果たしている。 ○教育研究振興会と連携した企業説明会では、多数の企業とのマッチングが実施されており、学生に対する十分な情報提供がなされていると評価できる。 ○適切な連携で支援が行われている。概ね常識的といえる。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3概ね適切 2一部改善を要する 1改善を要する		
8 産業界との連携（開かれた学校づくりの推進）					
8-1	企業（団体）との連携を推進している	県内企業による学校の支援組織である教育研究振興会と連携し学生向けの企業説明会を開催(R6実績 3月4～6日)、企業実習を振興会会員企業で受入れ（5月、11月）、振興会による学生の全国競技会への参加等の支援、教員の研修・スキルアップへの支援、学生募集PR活動への支援、講師として会員社員を招聘 専攻科を設置し、企業人材を受入れ（R6 5社6名） 公開講座を開催し企業のリスキリングを支援（R6 延べ57日・16講座、延べ65人受講修了） 卒業研究発表会の企業への案内・助言 寄附等外部資金の受入れ促進（R6 実績9件）	3	3	○外部資金の受入れの促進は重要である。企業のリスキリング支援も地域に根差した産業技術短期大学校として重要である。 ○企業から派遣された外部講師による実践的な教育の実施や、企業におけるインターンシップを支援しており、企業との連携を推進している点が評価できる。 ○企業からの支援が単なる資金援助にとどまらず講師派遣等ソフト面にまで及んでいるのは評価できる。 ○連携という意味では本学からも公開講座や共同研究の実施等（企業・団体からの一方向からの支援ではなく）双方向の取組みとなっているのは評価できる。本学のプレゼンスの向上にも寄与しているものと思われる。アウトプットの余力の範囲であり、年度によって活動内容に濃淡が出ることは不可避だが、実情に合わせた継続的な取組みを期待したい。
	企業との共同研究等を推進している	教育研究振興会会員企業からの寄附による共同研究等を実施（1件）、産業技術専攻科における企業派遣学生の研究指導を実施（6件）、卒業研究を企業等と連携し実施（9件）、技術相談への対応（1件）			3
9 地域連携、地域貢献（開かれた学校づくりの推進）					
9-1	高校との連携を推進している	教員による高校への出前授業（4件）、産業教育推進のための高校の協議会等への委員就任・助言・共同研究（4校）、定期的な高校訪問、高校における学校説明会への参加、学校訪問（見学）の受入れ、卒業研究発表会の高校への案内	3	3	○高等学校への出前授業などは、志願者確保のためにも重要である。 ○産業技術短大校ならではの取組みとして評価できる。少子化の進展や若者の県外志向が強まる中で重要度は増している。高校生自身に来校してもらうオープンキャンパスや学園祭も重要なイベント。
	高等教育機関等との連携を推進している	大学コンソーシアム、やまがた社会共創プラットフォームに加入し連携事業を実施（合同学校説明会、やまがた進学大交流フェスタ、SD・FD研修等）			3
9-3	民間団体、行政、地域等と連携している	県や市町村、民間団体等への教員の講師派遣・会場提供、やまがたAI部活動等への協力 県産業科学館、県民会館等への出前イベントの開催・出展（7月参加者延べ145名、11月参加者延べ70名、3月参加者延べ43名） 地域コミュニティセンターと連携した子供向け講座（土木への関心喚起）の開催（8月18名） 夏休みの中高生向けプログラミング講座の開催（7月11名） 授業（現代コミュニケーション論）を一般に公開 関係業界団体と連携した体験教室等の開催（随時） 地域の町内会行事への参加、共同の取組みの推進 学校施設の開放（体育館の地域の学校への開放、図書館・食堂の外部への開放等）（通年） 学校における業務実績等に関する評価委員会を開催し、外部意見を運営に反映	3	3	○地域のコミュニティーや中学校、高等学校などの生徒対象の講座や出展は、短期大学校の存在価値を高め、ひいては、地域へのその教育研究活動による知的利益の還元に結びつく。今後も積極的な取組みを期待する。 ○裾野の広い地域貢献活動を行っており、本学の啓蒙やプレゼンス向上に寄与するものと期待できる。一方でこの活動が、どのくらい地域に認知されているかは常に確認が必要である。 ○卒業生のUターン希望者の就業相談・情報提供はできないか。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3概ね適切 2 一部改善を要する 1 改善を要する		
10 入学生確保・情報発信					
10－1	志願者確保のための効果的な広報を行っている	学校・各科の特長や特色（少人数教育、最先端の機器・実務経験豊かな教員、就職率100％、低学費、各分野の実践技術者育成 等）をわかりやすくPR 学生募集・広報委員会における検討、高校教員対象学校説明会（5月 27校）、高校訪問（春・秋）、小・中・高校の学校訪問随時受入れ(R 6 実績 延べ12件）、出前授業、出前イベント、オープンキャンパス（夏7月 261名・秋10月 72名参加）、各種進路説明会への参加、ガイドブックの作成・配布、県政広報媒体の活用（県広報誌、県政テレビ・ラジオ、SNS）、土木エンジニアリング科ワークショップの開催（5月～6月 計2回延べ2名参加）	3	3	○広報活動は積極的で評価できるが、志願者数の現状に鑑み、さらにどのような形での広報を行うのが有効であるか、検討をすべきであろう。 ○活動内容としては十分に充実しており、一定の評価ができる。取組みの効果の検証と方法の検討については継続的な検討が重要である。 ○電子メディア（Web/SNS)の活用強化や若手Uターン志望者のリスクリングの受け皿としての都市部向け広報等もあってよい（もちろん県内のリスクリングの受け皿としても）。
	知名度向上のため学校全般の情報発信を強化して行っている	SNS（X、Youtube）による発信強化、ホームページ、県庁プレスリリースによる適時の広報、イベントや共同研究事例等の新聞掲載の働きかけ、県広報媒体の積極利用（県政テレビ番組、広報誌等）、地元新聞社への広告掲載、地域コミュニティセンターとの連携	3	3	○地元新聞への学校紹介特集掲載を通して、保護者を含めた知名度向上の取組みを行っている点が評価できる。 ○活動内容としては十分に充実しており、一定の評価ができる。取組みの効果の検証と方法の検討については継続的な検討が重要である。 ○電子メディア（Web/SNS)の活用強化や若手Uターン志望者のリスクリングの受け皿としての都市部向け広報等もあってよい（もちろん県内のリスクリングの受け皿としても）。 ○さらに一層の知名度向上に心がけたい。

《評価指標》

	評価指標	評価指標の観点	R6の目標	R6の実績	外部評価
1	総訓練時間数 ※R6の実績はR6入学生の1年次実績と2年次予定時間の合計	教育訓練が規定に即して行われているか(R6入学生の総訓練時間数(見込み))	2,800時間以上	デ2,970h メ2,985h 知2,976h 情2,916h 建2,832h 土2,893h	○目標に即して、実績をあげている。 ○各教科とも目標時間は達成できている。
2	就職希望者に対する就職率 (県職業能力開発計画目標値)	学生の希望に沿った支援ができているか（R7.3月卒業生の就職希望者の就職率）	100%	99%	○高い実績である。 ○ほぼ達成。本学が訴求する最大の強みだけに継続的な努力を求める。
3	県内就職率 (県職業能力開発計画目標値)	県内産業界に人材を輩出できているか（R7.3月卒業生の就職者のうち県内就職率）	90%	88%	○目標にほぼ即した結果である。 ○ほぼ達成。本学建学の目的でもあり、継続的な努力を求める。